



II-3-①



II-3-②-a

熊野神社は、古くから広く信仰を集め、特に武家方によるさまざまな保護が与られています。

拝殿の北には、奥の院と呼ばれる老女の宮（1棟）が鎮座しています。本殿は、証誠殿を中心に左右に十二社権現社・那智飛龍権現社を配し、茶木造でこけら葺です。証誠殿と那智飛龍権現社は、熊野信仰にかかわる神社に多く見られる形態で熊野造と呼ばれており十二社権現社は、流造と呼ばれる別な形態です。建築年代については、3棟とも、多少の年代のずれはあるものの江戸時代初期に建てられたものと考えられ貴重なものであるということで昭和60年に県の指定を受けました。

また、当社には神楽（県指定）・舞楽（市指定）が伝わっており、地元の社家といわれる踊り手によりお祭りのときに奉納されます。

II-3-①



II-3-②-d



II-3-②-e



II-3-②-f

熊野神社本殿（奥の院）

II-3-②-d



II-3-②-b

熊野堂神楽（三剣之舞）

II-3-②-b



II-3-②-c

## くまのじんじやもんじよ 熊野神社文書

所在地 名取市高館熊野堂宇岩口上51

所有者 熊野神社家

熊野神社（熊野新宮社）の元締めである熊野別当は、奥州藤原氏の後見的な立場にあったといわれる。源頼朝による奥州征伐の際は、激しい抵抗をして敗れたが、のちに許されて本土に返された。熊野神社は平安時代末期ごろ、かなりの勢力をもっていたと推測されている。

この熊野神社には「熊野神社文書」と呼ばれる中世・近世の古文書が伝わっている。その文書からは、奥州管領吉良氏・總兵衛石橋棟義などから土地の寄進や税金の免除、さまざまな下知・兼制などを受け、伊達氏の時代になっても数々の寄進、奉納を受けていたことが伺える。そのことから当神社が中・近世において、時の地方の有力者から手厚い保護と信仰を受け、崇拝されていたことがわかる。

II-3-③